

# 義太夫

## 近松半二の浄瑠璃

義太夫協会々報  
第 36 号

昭和60年11月20日  
社団法人 義太夫協会発行  
〒104 東京都中央区銀座  
6-18-2 新橋演舞場 B 2  
TEL (541) 5471

昨年は、義太夫協会主催の「義太夫節三百年記念公演」が三越劇場で催されたが、今度は、来年の一月二十七日に、国立劇場演芸場において近松半二の作品を特集した公演が催されることになった。楽しみに待たれるが、この公演は、近松半二の没後二百年を記念する意味が込められているようである。

ところで、近松半二の没年は、天明二年（一七八二）説をはじめ、天明三・四・五・六・七年の諸説があり、確証がないために特定できない。しかし、半二の絶筆とされる「伊賀越道中双六」の初演された天明三年（一八七三）没というのが通説となっており、これに従うとすれば、来年は半二没後二百三年ということになり、二百年記念をうたうのは遅きに失することになる。けれども、没年について数年にわたる諸説がある以上、前後に二、

義太夫協会相談役 景山正隆

三年のずれがあっても、二百年を記念する意味は決して失われることはないと思う。

この機会に半二の作品を特集するについて、正確な年数が問題となるのではなく、半二の作品に対する私たちの認識をあらためて問い直すところに意義があるものと考えたい。一般に作者としての半二に対する評価は、近松門左衛門はもとより、人形浄瑠璃全盛期の竹田出雲や並木宗輔などに比べても一段低く見られ、謎の多い複雑な筋立て・対照的な人物の設定や場面構成・歌舞伎的手法の導入など、極度に技巧を凝らす職人的な作者というようなイメージで見られがちであるが、ともするとその面だけが強調されて、肝心なところが見失われてはいないであろうか。

確かに、半二の技巧的作風には、知的な緻密さがあり、いかにも作家的な点が目につく。

しかし、技巧倒れとなって義太夫節本来の人間の人情を描き出すことが疎かになっていくかという点、決してそうではない。半二の作品で、今なお名曲として多くの人々に愛好され且つ上演頻度も抜群に高い曲（例えば、「野崎村」「沼津」「山の段」「袖萩祭文」「十種香」など）に耳を傾けてみるならば、何れも、親子恩愛の情の美しさや哀しさ、時代を超えて、切々と聴く者の胸に迫ってくることを、あらためて思い知らされる筈である。現代に伝えられた百七、八十曲の義太夫節の中で凡そ一割を占める半二の曲は、音楽的にも内容的にも優れた作品が多いのである。

半二が活躍した時代は、人形浄瑠璃全盛期の頃とは逆に、興行的には歌舞伎に押されて極めて苦しい状況におかれていた。半二独特の技巧的作劇法は、そのような不運な時代性を反映しているものであり、人形浄瑠璃復興を期しての精力的な活動の結果を物語るものと思われるべきであろう。半二その人は、若い頃には遊蕩に明け暮れたともいわれ、没後に刊行された随筆『独判断（ひとりさばき）』や十返舎一九の『忠臣蔵岡目評判』などでも知られるように、人間味の豊かな人物であったらしく、そうした温かい人間性が、数々の作品に反映していることは紛れもないことと考えてよいであろう。

（東洋大学教授）

ごあいさつ

義太夫節保存会会長

豊澤 仙廣

早いもので間もなく師走、朝夕はひときわ冷えこむようになりました。皆様、お元氣にお過しでいらっしゃいますか。

十月、回向院での義太夫祖先祭には御連中様たくさんのお参りで、また若い後継者も増えまして、御先祖様もさぞかしお喜びの事と厚く厚く御礼申し上げます次第です。

今年最後の本牧公演は、恒例「忠臣蔵」の通しですが、若手が上達しておりますので、皆様にもきっと喜んで頂けると、私の一人よがりでしょうか。二十日はチャリティーでもございますので、よろしく御支援の程、お願い申し上げます。

来春早々、国立演芸場で昼夜の公演が決まりました。土佐廣師を始め、役員懸命に勉強しております。これを聴くまで私も元氣でいて、皆様にお目にかかりたいと、それを楽しんでこの御挨拶を書きました。演芸場も満員になりますよう、よろしくお引立の程、伏してお願ひ申し上げます。

# 聴いて貰う会せむ口 岡本文弥

学校の先生方を招待して義太夫を聴いて頂くという夜の本牧亭へ私も一門の三四人の女性と打ち連れて参りました。早めに行ったのに木戸は混雑で、吉川英史先生がその人込みに揉まれているのが愉快でした。愉快といっでは失礼ですが、こういう催しが開場早々こんな賑やかなこと、嬉しいではありませんか。喜びの余りの愉快です、お許し下さい。先生はこの日昼、国立小劇場の古曲の会の解説の仕事のあと、夜は本牧亭での解説という掛け持ちで、ご苦労ながら古典三味線音楽のために芽出たし々々と祝福したい所です。

場内は開演前から殆んど一杯の大入りで、遅れてくる筈の仲間のために袋などを置いてわが物としておいた座蒲団も明け渡す始末、まわりの顔々々も気のせいとか、男性も女性もみんな先生らしく堅実勤勉ふうで、明治の昔娘義太夫の語りに惹かれて「どうする々々」と奇声を挙げた書生たちの有頂天さは全くないけれど演奏が始まると前へ乗り出すようにして聴き入る真剣さがすばらしい。

いわゆる「食わず嫌い」が絶対に多いのではないか。若い人たちに邦楽の好き嫌いを尋ねると、好きも嫌いもない、全然知らないのです。聴けばびっくりするので。聴き馴れ

れば好きで好きでたまらなくなる若人も出るのです。だから、この夜のような「聴いて貰う」会を続けることが何よりも肝腎だと思ふ。今はまだ邦楽各流の中心は老齢者だけれど、許される限り若手の演者を抜擢して演奏会の雰囲気若々しくすること、この夜に限って言えば野沢錦鈴さん如きが出ると客席に好感期待の熱気が盛り上がる、若い客の中に「われもまた」の夢を抱く男女無しとも限らない。出しもの一つにぜひ「野崎」とか「堀川」とか、ツレ弾きある曲がほしい。同じものを二度三度くり返してもいい、ツレ弾きは客の心を浮き々々させ、いつまでも心に残る。

吉川先生の解説で大体の筋が呑みこめて淨瑠璃を聴く興味も深まったと見えました。さて、更に、演者による「語り」や「三味線」についての解説、時には古人名人芸のレコード或いはテープによる鑑賞などがあっていい、あるべきだとも思うのですがどうでしょう。

終演のあと出口の混雑で私たちは、なじみの本牧亭だから暫らく客席に残って余韻を楽しみました。この夜の成功を祝い、これからはぜひぜひと祈らずにいられます。

(60・10・26谷中にて)

1985. 11.20

## 邦楽の中の義太夫節 — 位置と特徴

教師のための義太夫講習会より

講演 吉川 英史

去る九月二十一日に行いました教師のための義太夫講習会（文化庁助成）は、八王子車人形・西川古柳氏の協力も得て、大変な盛況、新内界の最長老・岡本文弥師が、当日の印象やアドバイスをお寄せ下さいました（2頁、聴いて貰う会せび）。吉川英史会長の講演は、他の邦楽と比較することにより、義太夫節の特徴がくっきり浮び上がり、更に邦楽全体に興味を抱かせる（アンケートによる）ものでした。ここに再現いたします。

### 一、最も長い時間を要する音楽（↓小唄）

本日は、邦楽の中の義太夫の位置と特徴というようなお話をしてみたいと思います。何でも、比べてみませんか高いとか低いとか、早いとか遅いとかいえない訳でありまして、義太夫節も他のものと比べることによってよく判ると思うのでございます。

例えば、長さからいまして義太夫くらい長編の音楽、或いは音楽というものは、日本にもありませんが、外国でも珍しいのではな



講演中の吉川会長  
(60. 9. 21. 本牧亭)

撮影 スタジオ・サトー  
佐藤公夫氏

いかと思います。今は義太夫節全曲をやることは殆んどありませんで、国立劇場の通し狂言などと申しまして、全部はやっておりません。原作通り全部やりますと、朝暗い間から夕方くらい迄かかる訳ですね。そういうものの中の一部分、特にその面白そうな所をぬいてやるのが今のやり方でございます。そういうことで義太夫は、或る意味で損をしている、放送局あたりが仲々とりあげにくい訳です。これを「短くしろ、短くしろ」といわれると内容が判らなくなる等ということがありまして、非常に苦労している訳でございます。反対に一番短いのは小唄だと思えます。小唄というのは一分くらいのも沢山ありますが、三、四十秒で一曲というふうなものもでございます。西洋のシャンソンやリードにはそういうものは沢山ありますが、日本の中では小唄が一番短いと思えます。

### 二、最も大きな音量 低音（↑小唄）

#### 腹帯

音量、声のボリュームと三味線のボリュームがありますけれども、これも一番大きなボリュームを出す、或いは出すことを要求するのが義太夫節でございます。大きな声を出すためには腹に力を入れなくてはならない。ですから義太夫の太夫は腹帯を締める、非常に固い腹帯をギリギリ巻いて締める。三味線ひきも締める訳ですが、そういうことをやる邦楽は他にございません。腹帯が、義太夫がいかに力を要する芸であるかを証明していると思えます。

#### 白湯

音楽を御覧になりますと、太夫の床の横の下で若い人が、師匠或いは先輩の芸を一生懸命に聴いております。その人を白湯汲みといいますが、白湯のお世話をします。なぜ白湯が必要かというと、声をしっかり使う、また長時間やらなければいけないからでございます。義太夫以外でも多少は飲みますけれども、白湯汲みというものが決められている程、それが必要であるというのは、他にはございません。

ついでながら、白湯汲みは単にお世話をしているだけではありませんで、あれが修業、勉強なんです。師匠の芸を一生懸命聴いている、つまり聴くことが稽古なんです。一対一で面と向って教わるのも稽古であります。稽古の時には格調を下げて、弟子に判り易いように少し下った芸を実は伝える、つま

1985. 11. 20

り芸の形だけを伝える。その形も少し簡単にしてみたり、やり易いようにしてみても教える。ところが、舞台でお客さまに向ってやる芸は、そういう遠慮会釈はありません。もう一番いい芸を全力投球でやる訳です。だから、稽古するならば一番いい芸を身につけなきゃならない。だから面と向って教わるよりも、舞台の下でじっと一生懸命聴くことが立派な修業、立派な稽古なであります。

文楽の方では白湯汲みという決まりがございますけれども、他の清元などでも人によっては、そういう心掛けで稽古している人がある訳で、清元志寿太夫という人間国宝、清元世界の最長老の芸談を聞きますと、あの方は五世清元延寿太夫という名人のうちに内弟子に入りましたけれども、延寿太夫から一べんも稽古をして貰ったことはない。日本の内弟子というのは、そういうものなんです。今では面と向って稽古をつけてくれる師匠が沢山ありますけれども、昔は、内弟子には却って教えないんですね。素人さんには教える、それを隣りの部屋あたりで聴かせて貰う。ところが、それも仲々聴かせて貰えない。お掃除、お守り、買もの、そういう雑用で時間をとられてしまう。だから「聞きたいなあ、習いたいなあ」という気がムラムラと起っている訳ですね。そういう積極的な気持があるからこそ、師匠が他の人に教えているのが耳に入る、或いは心に留まる訳です。そういう風にして志寿太夫は何年か内弟子をやってきました。

上げ膳・据え膳で教えるのが本当の教え方であるかどうか、つまり、つき放した「教えない教え方」というものも日本にはある訳です。今の若い人は、もっと能率的に短い時間で沢山教えて貰いたいと、テープを使ったり色々文明の利器を使います。大ていのことを教わるんでしたらそれでいいんですけども、名人上手になるといような人は、もっと全体的な、もっと精神的な、もっと全人的な触れ合いのある芸の受けとり方をするのでございます。そういう日本音楽の特徴があるものですから、少し脱線いたしました。

てんでん物

歌舞伎で義太夫を基にした外題のものを、「丸本歌舞伎」ともいいますが、「でんでん物」と申します。義太夫の三味線がデーンデーンというような音を出す。チンチンチンというようなのは長唄とか小唄あたりですが、義太夫は低い音をかなり使う、そしてそれが大きい。腹にしみわたるようなそういう音を出すという事で、「でんでん物」などと申します。

大道具の音

例えば「太功記」の十段目で光秀が出るところは、武士の大きき、豪傑ぶりを表わすため、三味線を弾くんじゃなくて「たたく」ところがございます。たたく音が余りに大きいので、表の大道具が倒れたかと思つて、裏方の大道具の人が慌てて舞台に行つてみたというエピソードがありますが、それ程大きな音をさせることもある。勿論、お姫さま等の動

作に合わせる時には、やさしくネットリと弾く訳であります。英雄・豪傑が登場する時には、そういう大きな音も出す——つまり、音の巾が非常に広いですね。西洋音楽ではダイナミック・レンジ Dynamic range といいますが、そのレンジが非常に広い。これほど広いのは、バイオリンにもありません。これほど広いのは、ギターにもありません。ピアノなら十本の指でガンとやりますと相当であります。ひょっとしたら一番大きな音をたてた義太夫の三味線の方が、ピアノのガンよりも、もっと迫力があるかもしれないと思ふくらいでございます。

太棹・鉛入りの駒(↑爪弾き)

日本の三味線を太棹・中棹・細棹と、昔から三つに分ける習慣があるんですけど、義太夫節では太棹を使います。太棹というのは棹が太いだけではありません。糸も太めを使いますし、撥も厚い大きい撥を使います。更に絃をのせておる駒も大きく、鉛を入れて重みをつけている。力強く、しかも大きな撥でたたくように弾いたりいたしますので、義太夫三味線の表現力というのは、ひょっとすると百人のオーケストラよりもっと迫力があるかもしれない。百人のオーケストラは音量としては大きいでしょうけれども、何しろ絃楽器で連続音ですから、ダダダッというような音は余り出さない。三味線の方はリズム楽器であり、強い音を打楽器のようにも出しますから、弓の楽器よりも迫力が出る訳です。それに比べますと一番小さいのがやはり小

唄の三味線でありまして、爪弾きをいたしたまふ。と申しましても本当に爪で弾いている人は素人だといわれます。爪のそばの肉で弾くんだそうです。むしろ肉弾きといったらいい位です。ですから硬い音を出さない。小唄はそういう小さい柔かい音を出しますから、大会場などの例外は別にして原則的には撥を使いません。肉弾きをいたしまして唄も、西洋のARIAのような大きな口を開けません。つまり非常に控え目に歌って控え目に弾いておるのですね。それに比べて義太夫の方は、腹から声を出し、なるべく大きな口を開けて、大向うまで聞こえるような徹底した語り方をする訳です。

### 三、語りものである

#### 一 日本の声楽の三大分類

(資料 I)

#### 1. 歌い物 日本声楽の三大分類

歌い物 催馬楽、地歌(地唄) 生田流  
箏曲、長唄、端唄、小唄、民謡

#### 2. 吟じ物 古代朗詠、早歌、薩摩琵琶、筑

前琵琶、吟詠(詩吟、近代朗詠)

#### 3. 語り物 平曲、謡曲、説経、祭文、浪曲

浄瑠璃(古浄瑠璃、義太夫、一中、河東、常磐津、富本、清元、新内)、山田流箏曲

義太夫は歌うものではありませんが、語りものであるということが、忘れてならないことです。日本の声楽を三つに分けると書いておりますが(資料 I) これは他所では一寸通用しないかもしれません。これは吉川学説でありまして、普通は歌いものと語りものに分ける、つまり二大分類であります。ところが、どうもこの二つだけでは足りないように思うので、吟じものというのを一つ私が入れている訳で、これは本にも書いておりません。本邦初公表ではありませんが、この席では特別サービズで吟じものを出しました。これがあることによって、日本の音楽の位置づけが割に出来易いと思うのです。

#### △歌いもの▽

古いところでは催馬楽、これは雅楽の中の歌いもののひとつで奈良時代頃発生、平安朝頃しきりに宮廷音楽として歌われたものです。これを聞きますとアアアアアアとかイイイイイイというようなことが非常に多い。ですから一寸聞いても何を歌っているのか、どの曲か判らない。それ程、歌うということがマ後で申しますが、母音を引っぱることが多い訳です。

地歌(地唄)の歌の字を使い始めた、というか、頑固にこれを主張しておるのが私でございます。芸大なんかでは大体「歌」に改まっておりますが、NHKや国立劇場ではまだ「唄」を使うことが多い。歴史的にも論理的にも困ることなので、地うたは「歌」にしたいというのが私の主張でございますが、そ

の理由を説明いたしますと、時間が超過しそうですね、今日は申しません。

山田流箏曲の方は語るような琴唄で、生田流の方は歌う琴唄です。長唄は勿論、歌いものであります。語るような部分もある。それは段々近世になると、色々な音楽が混って複雑になって、歌いものの中にも語りものの要素が入り、語りものの中にも歌いものの要素が入るといふ風に、日本の声楽は展開してきています。端唄、小唄あたりは本当に歌うものであります。民謡——民謡にも多少語るようなものもありますけれども、大体これも歌うものでございます。

#### △語りもの▽

平曲が最初の語りものだといいますが、それは歴史的にはウソであります。もっと古い語りものがありますけれども、名高いところでは平曲(平家琵琶)が古いところの語りものであります。それから謡曲とか説経。説経はもともと坊さんの説経から始まりますが、これが音楽的になりますと歌説経などといえます。山伏の祭文が音楽的になったのが歌祭文、義太夫の中に「新版歌祭文」とあるのがその歌祭文のことなのであります。

浪曲・浪花節、これも語りもの——で、一番語りものの中で沢山を占めて現在一番盛んに行われておるのが浄瑠璃であります。だから浄瑠璃イコール語りものと思われている人が多いんですが、そうではなくて、語りものの中には浄瑠璃と浄瑠璃以外のものもあるということ、よく知っておかなくては

1985. 11. 20

けません。浄瑠璃の中に( )をして色々あげましたが、古浄瑠璃というのは便宜上の名前です。義太夫節以前の浄瑠璃をこういうことがありますが、次が我が義太夫節、今から三百年程前に始まった義太夫です。次に京都の一中、江戸の河東。一中から派生した流派に常磐津、富本、清元、新内。そして、山田流等曲が生田流と違ひまして語りものの等曲であるト、しかし世間ではそういう風にいわないかもしれません。山田流の方たちも、語っていると、思っているらっしゃらないかもしませんが、私共第三者からみれば正に語っていらっしゃる等曲でございます。

△吟じ物▽

そこで真中の吟じ物でございます。丁度催馬楽と相対して雅楽の中に朗詠というのがあります。今でも若山牧水の和歌をうたうというような朗詠もあります。それと区別するために古代朗詠としておきました。催馬楽のようにアーアーと引っぱりません、言葉が判る位の引っぱり方があります。

早歌というのは謡曲などの親になったような声楽であります。宴會に歌うなどということでは、宴會といわれる場合もございませう。

それから薩摩琵琶・筑前琵琶という近世の琵琶、そして吟詠——詩吟とか近代の朗詠と一緒にしまして今は吟詠などと言っておりますが、こういうものは語り物としても一寸例外的な所、難しい所があります。丁度、社会党と自民党の間の民社党みたいな両方にま

たがった、両方と少しずつ違うという一種の民社党的邦楽でございます。

四、浄瑠璃の二大分類 (資料Ⅱ)

- 浄瑠璃の二大分類
  - 1. 人形浄瑠璃 古浄瑠璃・義太夫
  - 2. 歌舞伎浄瑠璃 一中、河東、常磐津
- 富本、清元

人形浄瑠璃と歌舞伎浄瑠璃に分けると、便利なんです。人形浄瑠璃では、人形は喋りませんから浄瑠璃を語る人が詞も受け持ちます。浄瑠璃では科白といわず詞と言いますが、詞もやらなければいけない。義太夫には詞が沢山ありまして、詞がうまくやれなければ義太夫語りになれない。節・旋律だけではダメなんです。

それに対して歌舞伎浄瑠璃は、歌舞伎役者が科白をやりますので、浄瑠璃の人は節のところだけを受け持つ。そういう意味で一中、河東、常磐津、富本、清元というのは大体詞を受け持たない。但し、歌舞伎でなく、お座敷などでやる場合には臨時に詞もやりますが、大体役者の科白と同じ様な調子でなさるようです。



五、「歌う」「吟ずる」「語る」の違い (資料Ⅲ)

速度	歌う	吟ずる	語る
音価	自然的	自然的	感情的
伸ばし所	長い	長い	短い
使用音	語内も	語尾	語尾
拍節	音階的	非音階音も	不特定
拍節	拍節的	非拍節的	非拍節的
声質	統一	統一	多様

歌い物・語り物・吟じ物は作品としては先のように分けられますが、それでは、歌うとか語るとか吟ずるといふのはどういふことなのか、どう違ふのかを表わしたのが資料Ⅲであります。これが学界で全部通用している訳ではありません。今の段階では、こう分けてみたらどうであろうという私案を提出しておる訳でございます。

△速度▽

まず歌う場合には自然的なテンポであります。本当は規則的なテンポといたいたいんですが、日本の声楽の場合、歌っている間に段々速くなったり遅くなったり、つまりメトロノームみたいないつも同じテンポじゃない訳です。しかし全体から見ると比較的自然的に聞こえる訳です。自然加速度的であります。

それが、語る時には感情の起伏に応じて速くなったり遅くなったり、変化が激しい訳です。時にはボンと間ができてつまる、西洋風にいえば、そこに休止符ができるような

1985. 11. 20

こともある訳です。

吟ずるといのは、この場合は歌う方に近い。サンセンソーウモクウ ウタターアコウリョウ（山川草木転荒涼）などと、大体、詩吟はテンポは同じです。パッと遅くなったり速くなったりというテンポの変化はございません。

△音 価▽

音の長さ、つまり長く引っぱるか引っぱらないかという問題ですね。現在の日本音楽は別として、古典の場合、歌うというとき大体のばすんですね。母音をゆっくりのばすのが歌うことであります。

それに対して語るといふと、これは短い。「何が何して何とやら」という風になる訳でナアナイガアーでは内容が判らない、判らせるためには早く片づけなきヤダメなのであります。

吟ずる場合にも比較的長い。但、どこを長く引っぱるかが問題なのであります。そこで伸ばし所というのがそのことであります。

△伸ばし所▽

歌う場合、催馬楽などでは「シャアキーイーイ〜」つまり「しゃ公達」と言うのが、何を言っているのか判らない程、どこでも伸ばす。ところが語る場合には、伸ばす所が決っている。ペーンケエーイーといわぬ、弁慶イーとか弁慶がアーとか、語尾や助詞のテニヲハのような所を伸ばすことはありますけれども、大事な語根の中を伸ばすことはございません。

△使用音▽

歌う場合、音階の音を使う、つまり、規則的な特定の高さの音を利用いたします。歌う場合は、すべて規則的であります。

それが語る場合は、使用する音の高さは不規則であり不特定である。音階音を使うが、音階にない音、つまり我々の話し言葉のような音程も使うのであります。

△拍 節▽

歌う場合には、手拍子がたたける位、拍節が規則的で、「手拍子をお願いします」なんていうのは、大体歌う場合を言っております。

ところが義太夫の時は手拍子はお願いできません、打てないですね。つまり非常に不規則、非拍節的であります。こういうものを自由拍節或いはフリー・リズム Free rhythm などといいます。

△声 質▽

歌う場合、長唄の伊十郎さんなら伊十郎さんの声でいつも同じような声の質で歌っていらっしゃる。

ところが語る場合は違う、義太夫の場合は非常に違います。光秀、その奥さん、十次郎みな声を変え、声柄を変えていきます。つまり、テンポやメロディーが違えばかりじゃないのではありません。声そのものを換えなければならぬのであります。そういうところに義太夫の難しさ面白さがある訳です。

時間の関係で、舌足らずですが、これもちまして義太夫の位置と特徴というお話を終りたいと思います。

義太夫クイズ 正解と当選者発表

- (一) 嗅ぎに来た 犬にいわしを くらわせる  
 仮名手本忠臣蔵 祇園一力茶屋の段
- (二) お袋を おどす道具は 遠い国  
 義経千本桜 鮮屋の段
- (三) 御無用で 笛と刀の 手がゆるみ  
 仮名手本忠臣蔵 山科閑居の段
- (四) 履物の 仇を刃物で 返す下女  
 加賀見山田錦絵 長局の段
- (五) 君へ忠 親へは孝の 喰った菓子  
 伽羅先代萩 御殿の段

正解者多数のため、抽選により左のお二人が当選と決りました。沢山の御応募、どうも有難うございました。

東京都新宿区北新宿 菊池淳子様  
 東京都目黒区目黒本町 杉崎まつ様

義太夫教室 O B 会

出演希望者募集中!

\* 昭和61年2月11日(火)建国記念の日  
 1時開演(予定) \* 上野広小路 本牧亭  
 \* 費用 一舞台10分まで五千円 20分まで一万円 30分まで一万五千円 (別に床世話料として一人千円) 師匠に対する謝礼は出演者各自による。  
 演目・所用時間・出演者名(期)・みどり、掛合の別などを12月16日までに一お申込み、お問合せ、詳細は事務局まで

1985. 11. 20

# 学校巡演リポート

— 60・10・8 都立成瀬高校にて —

常務理事 竹本 弥乃太夫

『日本語の意味表現と音楽表現』と題して、義太夫節の観点から朗読や、語りの方法を考える公開講座を行った。小説や物語り、詩などを感情をこめて朗読したい、聞き手の心をとらえて、上手に話し語りかけたい、そういった要望が、国語科教諭や高校生の、特に日本語の表現に関心をもつ生徒たちから出された。そのためには、日本語の音声上の特質を充分に知り、正確な発声法や、声量が出せるような心がけ、訓練が必要である。そこで請われて、義太夫節の実演と講演となったのである。内容は、平家物語巻九『敦盛最後』を素材にした浄瑠璃、一谷嫩軍記 組打ちの段により、敦盛の哀れをどのように表現しているか、ということにポイントをしばった。続いて、古典の朗読に義太夫節の語りの技法を活用して、登場人物それぞれの性格や、情景描写をより一層適切に表現することが出来るかを考えてゆく研究講座となった。

義太夫節の語りの技法は、朗読にも充分あい通じるものがある、毎年義太夫教室で行っている『音調基本』が、この際大いに役立った。最近の高校生たちは、非常に声が小さく、朗読をやらせてみると蚊の鳴くような有り様であるから、まづ発声の仕方から入らなくてはならない。小音だから人物の表現など

出来るわけではない。又、文章の読み方に、句読点の付けかたがわるいときているので、全く意味が通じない。本人にしても、ただ活字を追っているに過ぎないのではないかと、思えてならない。ともかく、ここで義太夫のよさを充分に理解させようと、表題にそって力説した次第である。……さてその結果はいかが？ 生徒からのアンケートをいくつか御紹介してみます。

◇義太夫節実演について参考になったことは？

◇竹本弥乃太夫氏の講演について参考になったことは？

◇今日の企画についてご意見、ご批評がありましたら。

○熊谷直実の胸中をどのように語るのか、興味津津でしたが、緩急くりかえされるなかで、しだいに核の部分に迫ってゆくところでは、本当に涙が出ました。

○テープなどで聞くより迫力があつた。声の強弱などによって、平家物語が立体的に伝わって来たような気がした。

○あれだけの長い物語のアクセントを、よく記憶出来るものだと感心した。(もしかし

て本にアクセント記号があるのですか？)

○迫力がすごい一言です。

○文楽を見にいったことはあつたのですが、実演を近くで見たのは初めてでした。実演する方の表情やバチさばきなど面白く拝見しました。

○テキストがあつたせいでしょうか、わかりやすく、その場面が頭の中に浮かんできても興味深いものでした。

○初めてなので、ただ漠然と日本古来のものだけに歴史を感じさせるなァと思いました。私達は今まで、日本語を書くという事は学んできたけれど、発音、発声の問題についてはあまりやってこなかった。美しい日本語を再発見するという点においても、私の心の中に残ったものがある。そして我々がほかでもない日本人であるという限り、美しい日本語で相手に分かりやすく話すことは、自分の気持を伝えるにしろ、朗読においても、英語など外国語を学ぶ以前に、最低限必要なことではないかと思つた。

○「が」「お」「を」の読み方、小さい「ツ」の読み方、繰り返す言葉など、普通だからだと読んでしまうようなところも緊張して読むことよって、昔の……何というか昔らしさ？が出て、迫力が出て良いと思つました。

○「と隠し」とか「重ね言葉」は参考になりましたが、実際にうまく読めるようになるには時間がかかりそうです。ふだん範読しながら、朗読がこんなに難しいと思つたのは初めてです。

(教員A)



○ 具体的な声の出し方については、大変参考になった。朗読指導については、充分な読解があつて初めて表現活動が成立するのだと思う。内容をいかに的確に表現するかという点から、技巧的な面に助言が片寄せた点が惜しまれる。(教員B)

○ 義太夫節などを聴ける機会はなかなか無いので、これからもこういう企画を多くして欲しい。やっぱり日本の文化は素晴らしいと思つた。

○ この企画のことを知って「是非聴きたい」とか「興味がある」と思つた人は、やはり若い年代の私達のことですから少ないと思つています。でも、日本の古くからの伝統芸能について、触れる、学ぶことは大切だと思つています。ですから、今回のような講座は、私にとって興味深く、また将来音楽の方に進むという観点からも関心を持つたのです。

……まだまだ沢山のアンケートを頂いたが、紙面の都合で掲載できないが、かなりの生徒たちが義太夫に関心を持ったことは事実である。そして、文学・音楽両面にすぐれている義太夫節の良さを理解してくれたことも、嬉しい。今後、生の演奏もさることながら、義太夫節の語りの技法を活用して古文の朗読に大いに役立つことが出来れば、義太夫協会としても、学校講演の新たな開拓になるのではなからうか……。

没後二百年にあたり ドラマツルギーの異才・近松半二を見直す！

義太夫浄瑠璃中興の祖・近松半二傑作集

とき 昭和六十一年一月二十七日(月)

ところ 国立劇場演芸場

入場料 昼・夜 各二、〇〇〇円

昼の部(二時半開演)

通し券 三、五〇〇円

夜の部(六時開演)

竹本 駒龍

お三輪 竹本 綾一

橋姫 竹本 越孝

奥州安達原

竹本 越道

妹背山婦女庭訓

求女 竹本 越若

袖萩祭文の段

鶴澤 重輝

道行恋苧環

三味線 野澤 錦輝

竹本 住友

心中紙屋治兵衛

野澤 錦鈴

御挨拶 義太夫節保存会会長

豊澤 仙廣

河庄の段

竹本 土佐廣

久作 竹本 綾之助

猪名川

竹本 朝重

お光 竹本 春華

おとわ

竹本 駒之助

お染 竹本 土佐菊

鉄ヶ嶽

竹本 素八

新版歌祭文

久松 竹本 土佐恵

関取千両幟

竹本 素丸

野崎村の段

母 竹本 素八

猪名川内の段

竹本 朝代

およし 豊竹 公二郎

呼出し

竹本 寛八

三味線 鶴澤 重輝

三味線

鶴澤 寛八

ツレ 竹本 土佐子

檀太鼓曲弾にて相勤めます

胡弓 豊澤 幸治

豊澤 仙離

(終演予定 八時五十分)

豊澤 多美子

豊澤 仙風

\*お問い合わせ・御予約は 義太夫協会事務局へ 電話 〇三(五四一) 五四七一番!

1985. 11. 20

## 女義太夫・竹本小播磨と播千代（続）

特別会員 佐野俊三

### 二代目小播磨と播磨一

昭和九年、小播磨四十二歳のとき、鼠貞筋のすすめもあり、播千代に二代目小播磨を継がせることとなり、東橋亭、赤坂の一ツ木倶楽部等で襲名披露をおこなった。そして小播磨は播磨一を名乗ると同時に、戸籍の上でも二代目を義女とした。二代目、二十一歳の時である。播磨一は若い時、弾き語りをしたこともあって、自身弾き語りで出演したり、時には二代目の糸を勤めたり、しばらく両刀使いをおこなった。

昭和十年の東京女義太夫人気見立番附によると、二代目は西の前頭四枚目に、播磨一は三味線で西の小結に位置している。いまこの番附を眺めると、播磨一の妹弟子の播磨年が西の小結に、越道が東の関脇に、素女の一番弟子・素八が西の前頭筆頭に、それぞれ位置し今日あるを物語っているが、何と五十年も前のことである。ともあれ私が子供心にも感じていたことは、美人の越道、美声で吐の強い素八、つんと乙にすました猿幸、巨漢の越駒、相三味線の紋教、目許のすっきりした駒登久、それに地味ながら芸のしっかりした駒龍。こういった人々が、東橋亭を本拠地としてそれぞれ活躍し、越駒、紋教、猿幸を除いた人々が今でも現役として一生懸命相勤

める姿を拜見して、芸一筋のすさまじさを感じるものである。

二代目は十八歳頃より胸を患い、ひそかに病院に通いながら寄席勤めをしていた。襲名披露のときは夕方より微熱が出はじめ、しばらく静養したらという周囲のすすめを振り切って太十を一段語り通したほどで、発熱で紅潮した頬や、うるんだ瞳が異常なほど美しかったといわれている。播磨一も二代目に献身的な愛情をそそぎ、順天堂病院に通わせると同時に、漢方薬或いはスッポンの生血を飲ませたり、寄席入りはすべて円タクを使用させたり、鼠貞筋のお座敷もすべて丁重にお断りするなどして、ひたすら快復を願っていた。

### 恋の定期便

二代目の体調はその后一進一退を続けていたが、当時、松竹の国際劇場で脚本部に席をおいていた藤井某氏が熱烈なファンで、二代目が東橋亭に出演すると劇場を抜け出してよく聴きに來ていた。そしてその翌日には早速芸評がはがきで届いていた。芸評といってもすべて素晴らしいとか感動したというたぐいのもので、それはファンレターといった方が適切なものであった。それがいつの頃からか毎日になり、年頃の内弟子の間では定期便という綽名をつけていたものである。それから間

もなく病院通いの時間が長くなるようになり、席もしばしば休むようになってきた。勿論、健康上の問題ではなく、藤井某氏との逢瀬に時間を得たいがための行動であった。はじめの内は播磨一も代演ということで、二代目の穴を弾き語りで埋めていたが、そんな事はすぐ耳に入るものである。二代目が入門して十年目、汗と涙で築き上げてきた栄光への道へ、暗雲がのしかかってきた時期でもある。

### 二代目出奔と女義会

この頃の演芸書報（昭和十四年二月号）には、女義を礼讃して止まない安部豊氏の「女義拝聴記」と、やはり同氏による女子浄瑠璃研究会における越道の芸評とが詳しく載っており、当時の人気のほどが忍ばれる。

このように女義が愛好され、再び往年の名声を得ようと懸命に、芸一筋に生きようとする人々に背を向けるように、二代目は藤井某と出奔してしまふ。昭和十四年の年が明けての頃である。実子以上に可愛がり、二代目の芸に賭けていた播磨一のショックは大きかったのか、残る播真・播光・小播の内弟子達に以前程の厳しい稽古をつけなくなってしまう。小播を残してそれぞれ親許に帰してしまつた。この頃、帝都因会女子部創立大会が明治座で開かれ、播磨一は巴住の糸で「狐火」を語った。また有楽町の東宝劇場内にあった「東宝小劇場」の名人会で、落語の金馬（先代）や志ん生（先代）に混って、色物として、同じ巴住の糸で出演している。当時は極東情勢の雲ゆきがあやしく、女義太夫にも鑑札が交



付された時代でもあったが、東京には竹本素女が主催する素女会と、東橋亭を根拠地とする因会、それに浅草の初音館で駒若の主催する義太夫座があったことを覚えていたが、年代が定かではない。ただし、それが独立していたのではなくて、お互いに交流をしていたようである。いま私の手許に一枚の写真があるが、素八師に見て貰ったところ、昭和十年頃(?)、桜田本郷町の飛行館と判った。中央に素女師、右へ素八、播磨一、素子、素次、佳世子、左へ清一、佳照(後の二代目綾之助)、猿昇、仙玉、素昇と並んでいる。二代目は披露後一年足らずで休演しがちとなり、その頃、素女師が愛弟子・素八のためにわざわざ播磨一宅まで出向いて、時の大御所ともあろう人が、それこそ辞を低くして素八の相三味線にと頼まれ、しばらく弾いていた時代のことである。

#### 夢のあと

昭和十五年以降は、播磨一として席へ出ることも少くなり、専ら新橋の「小松」へ出稽古をするようになった。この小松の女主人が義太夫愛好家で、美人で声もよく、素人ながら筋のしっかりした人であったらしく「勝子さん、勝子さん」と盛んに大事にしていた当時、何々芸者というのが新橋界限でもてはやされ、何人かの義太夫芸者を育て上げるのを夢としていたようである。しかし、それも遂に戦時下となり、播磨一の第二の夢もこわされてゆく運命にあった。

播磨一や私の記憶に残る人達の活躍は、岡田道一著「明治・大正 女義太夫盛観物語」(昭和二十八年出版)につまびらかであり、戦後の消息についても若干記されている。しかし、出奔した二代目は、戦後まもなく亡くなったらしいが、消息は全く不明である。播磨一は引退し、小播(筆者妻)のもとで暮らしていた

が、昭和四十五年七月六日に亡くなった。早いもので来年は十七回忌である。

なお時間があれば、演芸畫報やその他の文献の力を借りて、大正・昭和の女義太夫の盛衰を調べ、その中から一人の女義太夫語りとしての母の姿を探し求めることができれば、望外の喜びである。

(35号に誤りがあるので、御訂正下さい。)

6頁上段5行目 播磨太夫 ↓ 播磨太夫  
8頁写真年代 昭和15年 ↓ 昭和7年 以上

(お断り)女義がいかに愛好されていたか、その時代背景等を特に若い人に知って欲しいと、佐野氏の原稿には演芸畫報、女義太夫盛観物語各々よりの抜粋がございましたが、紙面の都合により割愛せざるを得ませんでした。茲におわび致します。尚、佐野氏には後日これらの資料を駆使して「大正昭和の女義盛衰」を編んで頂きたいと御依頼致しました。(編集部)

#### おめでとうございます

重要文化財保持者(人間国宝) 竹本土佐廣師が、46年の勲五等瑞宝章に続いて、このたび勲四等宝冠章を受けられました。心よりお慶び申し上げます。

9月30日、国立劇場にて日本演劇協会(会長北條秀司氏)創立35周年記念「演劇人祭」が行われ、80歳以上で精力的に活躍中の長老に感謝状がおくられました。義太夫関係は、竹本扇太夫、竹本住友、竹本染登、竹本土佐廣、竹本文春太夫、豊澤猿三郎、豊竹団司、以上七師でした。益々お元気に御活躍を――。

1985.11.20

# 義太夫節と

## 江戸小唄

竹村 謙介



手前、起請音紙はうそじゃない

竹柴蟹助詞 豊竹巖太夫曲

本調子へ仇花のにごりに白く咲きながら、  
流す浮名の女夫仲、なまなかひとり残れとは、  
そりゃ聞こえませぬ伝兵衛さん、たつる女の  
道すぐに、涙の道とゆく空の、今宵かぎりの  
天の川、やつす姿や露の編笠

小野金次郎詞 里園志津栄曲

義太夫協会の会報に小唄の事をかくのは一寸おかしいかも知れませんが、愛好者人口では邦楽の中で最高である小唄の中の義太夫節を主題にしているもので比較的よく演奏されているものをいくつか御紹介してみたいと思います。

本調子へもとの柳とかえる身に、ちようちようひびく斧の音、たのむ御法の道すぐに、棟となりてひかれゆく、和歌の浦には名所がござる、音頭の綱は緑丸、ヨイヨイヨイトナ

小野金次郎詞 初代飯島ひろ子曲

前弾三下り 本調子 へ三吉野のいろめずらしい草中へ、まよいこんだる蝶一つ、思い初めたが恋のもと、たとえ焦がれて死すればとて、鮎に愛もつすし桶の、しめてかためた二世の縁、二つ枕に花の里

里園志津栄曲

本調子へ男なりやこそ紙屋の治兵衛、関の孫六抜いては見たが、可愛い小春を何ころさりよか、不心中か心中か、誠の心は女房の、その一筆のおく深く、泣いて切れるも世間の

歌詞を読んでいただければ「すしや」とか

「河庄」だとかすぐお判りいただけると思います。作詞も作曲も義太夫節という大曲のエッセンスをうまく取り上げ、三分か四分間で何となくいい気分が唄える誠に結構なものと思います。

何故こんなことを書いたかと申し上げます、本牧亭公演、義太夫教室、其の他の記念公演等、協会あげて御努力により一生懸命種をまいても、なかなか芽が出てこない、種のまぎっぱなしの感をまぬがれません。少し異形の小さな花であるけれども、邦楽の一部門の小唄の中にこんなものがあって、愛好されているということをお知らせしたかったからです。

これから「義太夫小唄」というか、十分に内位の例に挙げた義太夫小唄式のものを作られて発表され、レコードになって各所にあるカルチャーセンターに進出し、これを習ったら又これを習うなら矢張り本牧亭に行かなければ、という事にならないかと願う訳です。それは邪道だとお叱りの方もあるかと思いますが。付録を一つ付けて終りといいたします。

娘義太夫

本調子へ幟はためく小川亭、姉昇菊の糸のり、語るは妹昇之助、娘義太夫のあですがた、「三つちがいの兄さんと、言うてくらしっているうちに」、涙をさそう一節に、花かんざしの灯がゆれる、遠い明治のなつかしさ

長沢栄蔵詞 佐々舟澄江曲

(賛助会員)

協会の動き

昭和60年8月より  
昭和60年11月まで

8月20・21日 芸団協助成女流若手勉強会

於本牧亭

8月22・23・24日 女流後継者育成事業 寺

入研修(野澤勝平師指導)

9月4日 大会企画委員会

於国立劇場稽古場  
於新小松

4日 義太夫教室第38期中級(三味線コ

ース)開講

於銀座三丁目東町会事務所

9月5日 同語りコース開講

於事務局

9月14日 資料部会

第8期竹本研修生適性検査 太夫

一名、三味線二名が合格した。

9月20日 鶴澤三生追善会

於本牧亭

9月21日 教師のための義太夫講習会(文化

庁助成) 2、7頁参照 於本牧亭

9月30日 昭和60年度民間芸術等振興費補助

金交付申請書提出

10月8日 学校巡演 8頁参照

於町田市成瀬高等学校

10月10日 祖先祭

於両国回向院

10月12日 資料部会

於事務局

10月16・17・18日 女流後継者育成事業 須

磨浦研修(野澤勝平師指導)  
於国立劇場稽古場

10月17日 学校巡演 於高崎音楽短期大学

10月20・21日 義太夫協会公演会 20日は鶴

澤駒治(駒登久門下)初舞台

11月1日 学校巡演 於東京女子学院

11月3日 竹本土佐廣勲四等宝冠章叙勲

11月14日 学校巡演 於八王子実践高等学校

11月15日 邦楽実演家団体連絡会議

於芸団協議室

11月16日 学校巡演 於八王子横山中学校

11月20日 義太夫協会会報第36号発行

八王子車人形 稽古場落成

東京都無形文化財・八王子車人形の四代目  
西川古柳氏宅(八王子下恩方町)の敷地内に  
このほど稽古場が完成しました。舞台と観客  
席も備えた立派なもので、10月12日めでたく  
こけら落とし、ゆくゆくは車人形会館のような  
形で活用したいとおっしゃっておられます。

計報

■鶴澤紋弥師(正会員) 60年8月22日逝去

■森 寿美氏(特別会員) 60年9月2日逝去

■利倉幸一氏(演劇評論家、演劇出版社社長) 60年11月26日逝去

■亀岡亀遊氏(賛助会員) 60年11月8日逝去

悼 利倉先生 竹本綾太夫

去る二十六日、「演劇界」出版社社長の利倉幸一先生が亡くなられた。お年は八十歳ということでしたが、もっともって永生きして頂いて斯界を御指導頂きたかったのに誠に残念なことでありました。不肖私が先生にお近づきを得たのは、昭和三十三年頃、義太夫協会の他に故三宅周太郎先生の雑用係の様なことをしていた時、各劇場で利倉先生にお逢いしたのが始めである。後年、私が義太夫協会の仕事もしていることを知られた時「そういうことを一生懸命する人もいなければ将来発展しない。頑張ってやって下さい」と仰った時のあの優しいお眼を思い出す。又、本牧亭の女流義太夫公演(当時は毎月四日間興行)維持の苦しさをお話した時「とにかく永く絶えず続けるというのは根気がいって難かしいものです。赤字で大変でしょうが、一度休むと駄目になります」ときっぱり仰った。そして陰に陽に大変お力添えを頂いたのが、竹本講習の開設である。昭和五十年九月発足以来、若き太夫十一名、三味線七名、計十八名で今や既存勢力を上廻り、やっと一息ついたところである。演劇界全般からすると、傍らの義太夫協会に迄いろいろと御配慮を頂き乍ら、何のお礼も申上げることが出来ず、恥入るばかりです。近々、竹本の現状その他を御報告申上げたいと思っておりました矢先の御逝去、もうあの慈眼に接すること適わずと思うと只々痛恨。御冥福を心からお祈り申し上げます。

1985. 11. 20

義太夫節三百年  
基金募金中間報告③

義太夫節創設三百年にあたって、会員各位ならびに関係者各位にお願いして、「三百年基金募金」については、会報第33号および第34号にて中間報告させて頂きました。以後も暖い御支援が寄せられつつありますが、本号にては、第3回中間報告として、御協力下さいました皆様のお名前を掲載させて頂くことにいたしました。昭和六十年十一月二十日現在、三、七九〇、〇〇〇円となっております。どうも有難うございました。

尚、誠に勝手ながら本年度いっぱい(61年3月末日)まで受けつけさせて頂きたく、何卒お力添え賜りますようお願い申し上げます。

記  
※募金額 一口五、〇〇〇円  
※払込郵便振替 東京4-1100684  
(加入者名) 社団法人義太夫協会

○印は、社団法人俳優協会の皆様方です。(五十音順 敬称略)

豊澤 仙廣	(二〇〇口)	吉川 英史	(二〇〇口) ✓	○市川 猿之助	(六口) ✓	演劇出版社	(二〇口) ✓
* 上田 勝久	(六〇〇口) ✓	竹本 土佐廣	(二〇〇口) 45 ✓	○神代 初美	(六口) ✓	岡田 聡	(二〇口) ✓
* 豊澤 鶴澤重造	(二〇〇口) 50 ✓	鶴澤 重造	(二〇〇口) 50 ✓	七宝の会	(六口) ✓	奥村 由伎子	(二〇口) ✓
* 豊澤 猿三郎	(二〇〇口) ✓	○中村 芝翫	(六口) ✓	加田 寿	(二〇口) ✓		



石井 實	(二〇口) ✓	渡辺 兼造	10/10	(六口) ✓
○尾上 松緑	(二〇口) ✓	* 竹本 駒龍	20	(五口) ✓
○尾上 梅幸	(二〇口) ✓	長谷川 卯一		(五口) ✓
菅 邦夫	(二〇口) 20 ✓			
高橋 正毅	(二〇口) ✓	* 尾上 菊五郎		(四口) ✓
竹本 朝重	(二〇口) 50 ✓	○竹本 越春		(四口) ✓
竹本 綾太夫	(二〇口) 20 ✓	(故) 鶴澤 三生		(四口) ✓
竹本 扇太夫	(二〇口) ✓	鶴澤 駒登久	19	(四口) ✓
竹本 駒之助	(二〇口) 10 ✓	野澤 吉平		(四口) ✓
竹本 米太夫	(二〇口) ✓	宮脇 雪むら		(四口) ✓
中島 古平	(二〇口) ✓	山田 操		(四口) ✓
○中村 歌右衛門	(二〇口) ✓			
○中村 勘三郎	(二〇口) ✓	* 杉崎 まつ		(三口) ✓
松井 一男	(二〇口) 10 ✓	竹本 春駒		(三口) ✓
松尾 武市	(二〇口) ✓	和田 博		(三口) ✓
* 竹本 綾之助	(八口) ✓	* 鑑の会		(二口) ✓
竹本 喜久太夫	(八口) ✓	有光 次郎		(二口) ✓
竹本 越道	(八口) ✓	犬丸 直		(二口) ✓
竹本 春華	(八口) ✓	上原 操		(二口) ✓
竹本 素八	(八口) ✓	白井 昭雄		(二口) ✓
* 竹本 素八	(八口) ✓			

1985. 11. 20

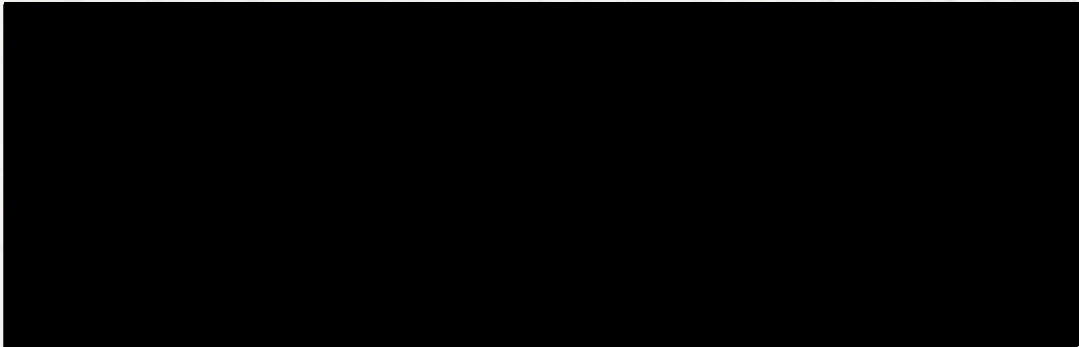
義太夫協会女報 第 3 6 号

02. 11. 289

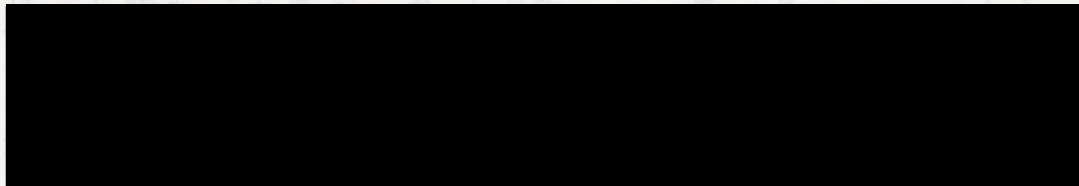
石井規子	新井貞枝	阿南千枝	浅香和子	福田安男	菱沼繁三	野田勝也	野島貞一郎	豊澤源平	寺内源守	鶴澤津賀昇	鶴澤重輝	鶴澤寛八	角田四郎	塚原心丸	長乾二	竹本福弥	竹本朝之助	竹内道敬	清野暢子	品川欣司	佐野俊三	坂本朝一	(財)古曲会	久保志方	加藤道子	
(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	
篠田重光	○沢村田之助	沢地トミ江	酒井淳	○斉藤裕嗣	小林吉男	小林二三枝	黒河内昱男	○金原ふじ	○河原崎権十郎	川鍋叔子	○片岡我当	○片岡市蔵	○尾上辰之助	小野悦子	落合藤子	小此木桃子	大貫紀子	内野アキコ	宇田川克己	岩井長太郎	井上一二	○市川門之助	○市川左団次	○市川團十郎	石塚武雄	石岡みよ子
(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓
豊澤義三郎	豊澤雛代	豊澤時若	豊澤新兆	富田道子	土岐迪子	出浦かう子	寺村栄一	鶴澤正一郎	鶴澤友路	鶴澤津賀友	(故)鶴澤英治	辻井秀峰	橋昭	田坂改三	竹本弥乃太夫	竹本染登	竹本三駒	竹本勝昇	竹本綾春	竹村謙介	竹内禮三	高橋貞夫	鈴木克子	鈴木一光	島村和利	島春栄
(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	
				渡辺慶太郎	鷺尾星児	横山敏雄	湯浅光玉	藪下尚夫	山本勇治	山田俊子	八木太呂夫	森晋六	室屋政弥	松橋正文	前田繕子	平田智恵	妣田圭子	○坂東彦三郎	○坂東玉三郎	服部良一	野澤治子	○中村松江	○中村富十郎	○中村東蔵	○中村雀右衛門	中村健爾
				(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	(二口) ✓	
				(合計 七五八口)																						

昭和60年11月20日現在  
三、七九〇、〇〇〇円

\*\*\*\*\* 新 入 会 員 御 紹 介 \*\*\*\*\*



\*\*\*\*\* 住 所 変 更 \*\*\*\*\*



~~~~~  
寄 贈  
~~~~~

藤倉 明治様 教師のための義太夫講習会(7月20日)スナップ写真  
 品川 欣司様 手廻し式蓄音器 一台  
 故岡田道一博士御遺族様 女義の思ひ出アルバム他資料多数  
 故鶴澤英治師御遺族様 歌舞伎関係テープ・朱入ノート多数  
 (三味線・撥・駒については次号にて御報告いたします。)  
 池田 弘一様 鶴澤三生追善会にあたり「日蓮記」の詞章 配布  
 故豊澤猿幸師御遺族様 三味線(桐長箱入) 一挺  
 琴 一面  
 三味線棚 一式  
 朱入ノート・稽古本 多数  
 三味線 一挺  
 床本・稽古本 多数

竹本 土佐廣様  
 竹本 土佐菊様

英治師の朱とテープは、感嘆の余り思わず歓声をあげてしまった程  
 完璧に整理分類され、すぐにも活用することが出来ます。猿幸師の  
 朱は舞踊関係のものが多く、協会の資料は益々充実して参りました。  
 とところが、収納棚設置まで手が廻らないため、これら貴重な資料は  
 段ボール箱に仮住い、出し入れし易い棚に納まる日を待っています。

~~~~~  
お見舞  
~~~~~

常任相談役の鈴木一光  
 氏が三井記念病院に、監  
 事の鶴澤重造師が心臓血  
 管研究所附属病院(心研)  
 に御入院中です。協会に  
 とって大切なお二方、ど  
 うか一日も早く御回復な  
 さいますようお願い申し  
 上げます。

~~~~~  
編集後記  
~~~~~

秋の日はつるべ落とし  
 会報の発行日まであと何  
 日、「忠臣蔵」まであと何日、そして国立  
 演芸場での大会までは何日と、たちまちカ  
 レンダーの残りはおと一枚。大近松(近松  
 門左衛門)がシェイクスピアなら、近松半  
 二は誰に相当するのでしょうか。没後二百  
 年を経て今なお人気の高い半二の作品集、  
 どうぞよろしく願っています。いささ  
 か気が早いようですけれども、良いお年を  
 お迎え下さい。